

# 現代日本人が思う地方への移住意向は？

朴 堯星 データ科学研究系 准教授

## 【はじめに】

日本人にとって、「義理人情」という感覚は、長い間、日本人の人間関係を表す特有の特徴とされてきたが、これまで地方への移住意向に対する「義理人情度」との相互関係については明らかにされてこなかった。本研究では、日本人固有の人間関係の特徴を表す「義理人情度」が、「地方への移住意向」に及ぼす影響に関する一連のメカニズムを確かめる。

## 【方法】 調査の概要

- ・日本人の国民性調査と韓国総合社会調査KGSSとの共同調査を実施、比較
- ・第14次国民性調査は、日本全国に居住する20歳以上の日本人男女から層化多段無作為抽出により抽出された個人を対象、個別訪問面接法で遂行、2018年調査のK型調査票の回収標本サイズ(計画標本)は3209であり、回収数1584、回収率49.4%である。
- ・韓国総合社会調査KGSSは、韓国満18歳以上成人男女から多段抽出法(multi-stage area probability sampling)に基づいたサンプリングにより個人を対象、個別訪問面接法で遂行、2018年調査の回収票本サイズは1,031、回収率は43%である。

## 【結果】

日本	＜地方への移住意向＞‘UターンやIターンをしたいか’との回答割合(%)			韓国	＜地方への移住意向＞‘UターンやIターンをしたいか’との回答割合(%)		
	全体 (n=1223)	男性 (n=588)	女性 (n=635)		全体 (n=890)	男性 (n=403)	女性 (n=487)
全体	38%	(468/1223)		46%	(412/890)		
＜性別(#1.1)＞							
女性	36%	(226/635)		44%	(215/487)		
男性	41%	(242/588)		49%	(197/403)		
＜年齢層別(#1.2)＞							
20～29歳	46%	(51/110)	42%	(26/62)	52%	(25/48)	
30～39歳	45%	(80/179)	43%	(35/81)	46%	(45/98)	
40～49歳	42%	(97/230)	45%	(54/111)	39%	(43/111)	
50～59歳	37%	(76/207)	37%	(38/102)	36%	(38/105)	
60～69歳	38%	(82/218)	46%	(43/93)	31%	(39/125)	
70歳以上	29%	(82/279)	35%	(46/131)	24%	(36/148)	
＜学歴(#1.3)＞							
学歴低(中学卒以下)	34%	(48/143)	33%	(19/57)	34%	(29/86)	
学歴中(高校卒)	35%	(189/540)	40%	(104/258)	30%	(85/282)	
学歴高(大学卒以上)	43%	(231/540)	44%	(119/273)	42%	(112/267)	

説明変数	オッズ比(95%信頼区間)	p値	オッズ比(95%信頼区間)	p値
＜性別(#1.1)＞				
女性(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
男性	1.374 (1.076 - 1.755)	0.011	1.372 (1.073 - 1.754)	0.012
＜年齢層別(#1.2)＞				
20～29歳(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
30～39歳	0.914 (0.558 - 1.497)	0.722	0.920 (0.562 - 1.506)	0.740
40～49歳	0.776 (0.483 - 1.247)	0.295	0.781 (0.486 - 1.255)	0.308
50～59歳	0.667 (0.408 - 1.090)	0.106	0.699 (0.426 - 1.147)	0.156
60～69歳	0.768 (0.470 - 1.256)	0.294	0.866 (0.520 - 1.442)	0.580
70歳以上	0.578 (0.350 - 0.954)	0.032	0.699 (0.406 - 1.201)	0.195
＜学歴(#1.3)＞				
学歴低(中学卒以下:参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
学歴中(高校卒)	0.862 (0.560 - 1.326)	0.499	0.787 (0.506 - 1.225)	0.290
学歴高(大学卒以上)	1.185 (0.752 - 1.868)	0.465	1.047 (0.653 - 1.680)	0.849
＜都市規模(#1.5)＞				
町村～市5万未満(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
市5万～市50万未満	0.721 (0.520 - 1.001)	0.051	0.707 (0.509 - 0.983)	0.039
市50万以上～区 6大都市	0.733 (0.509 - 1.055)	0.095	0.719 (0.499 - 1.037)	0.078
＜階層帰属意識(#1.8)＞				
低(下～中の中:参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
中(中の中)	0.882 (0.672 - 1.159)	0.368	0.864 (0.655 - 1.138)	0.298
高(中の上～上)	0.945 (0.644 - 1.386)	0.773	0.926 (0.631 - 1.359)	0.694
＜子ども優先の政策充実＞				
なし(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
あり	0.741 (0.566 - 0.971)	0.030	0.729 (0.555 - 0.956)	0.023
＜地方移住政策への賛否＞				
反対(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
賛成	3.840 (2.396 - 6.154)	0.000	3.727 (2.322 - 5.982)	0.000
＜自国に対する愛着(#9.22c)＞				
よその国に生まれてきたい(参照カテゴリ)	1.000 (ref.)		1.000 (ref.)	
日本に生まれてきたい	0.562 (0.407 - 0.774)	0.000	0.579 (0.419 - 0.800)	0.001
＜義理人情度(#4.4#5.1#5.1b#5.1c1#5.1c2#5.6#5.1d)＞				
義理人情スケール合計	1.133 (1.000 - 1.284)	0.050	1.139 (1.005 - 1.292)	0.042
＜休日の外出有無(#1.80)＞				
しない(参照カテゴリ)			1.000 (ref.)	
出かける			0.969 (0.751 - 1.252)	0.811
＜インターネットの利用(#1.11b)＞				
しない(参照カテゴリ)			1.000 (ref.)	
する			1.452 (1.018 - 2.069)	0.039
対数尤度	-770.073		対数尤度	-767.912
尤度比 $\chi^2$ (df=16)	87.310 (p<0.001)		尤度比 $\chi^2$ (df=18)	91.630 (p<0.001)
PseudoR <sup>2</sup>	0.054		PseudoR <sup>2</sup>	0.056
n	1223		n	1223

結果として、(a)「義理人情度」の感覚は、「地方への移住意向」に正の効果を持っている点、(b)「地方への移住意向」には、インターネット使用頻度などの情報アクセス能力の高さが影響している点、(c)自国に対する愛着心から浮かび上がる日本社会の現状肯定感が低いほど、「地方への移住意向」が高まる点、が明らかになった。

## 【参考文献】

- 朴堯星(2021)「何が地方への移住意向を決めるのか? :現代日本人の＜義理人情度＞を中心として」、『統計数理』, 印刷中。
- 林知己夫・櫻庭雅文(2002)『数字が明かす日本人の潜在力』, 講談社, 東京。
- 前田忠彦・朴堯星・他(2020)国民性の研究(第14次全国調査)—2018年全国調査— 統計数理研究所調査研究リポート。(準備中)